

こ ども の あん ぜん たい さく マニ ュ ア ル
子どもの安全対策マニュアル

い か の お す し

みんなで まもろう よいこの やくそく

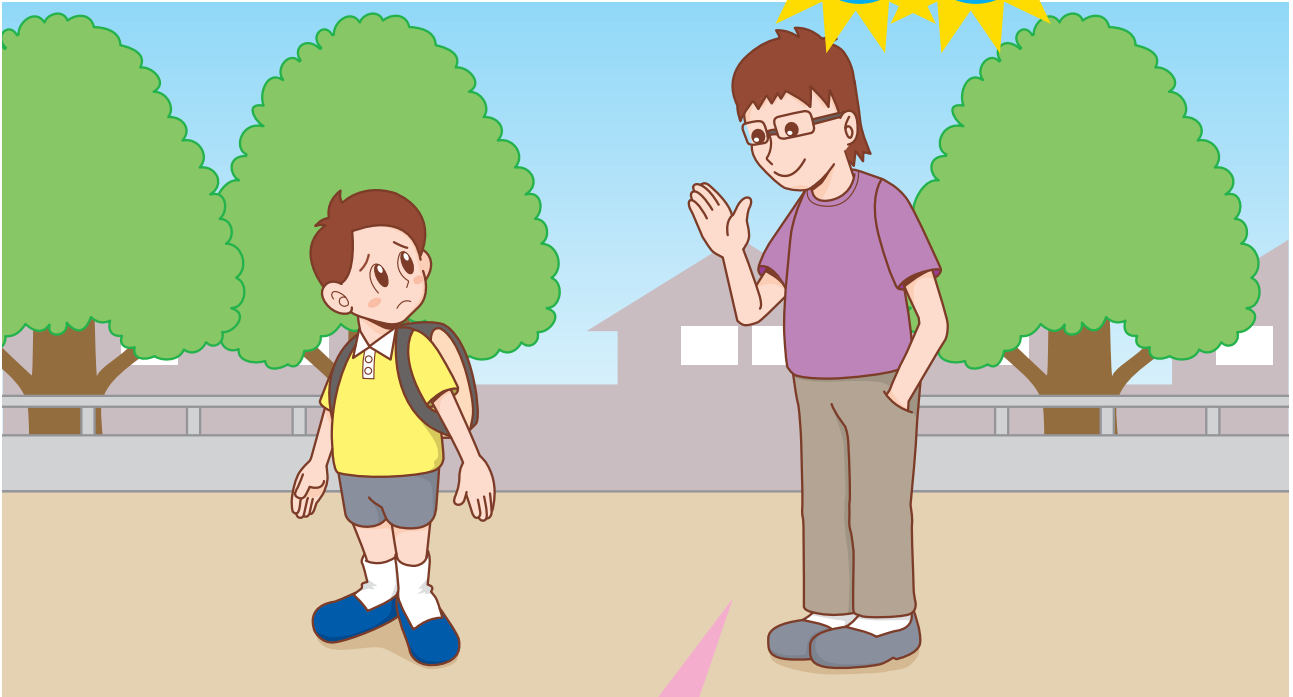


こわいおもいを しないための やくそくです。



い か のおすし

ついて **い か** ない



「うちのひとが びょうきでたいへんだから いっしょにびょういんにいこう」
「いぬがいなくなってしまったので いっしょにさがしてほしい」
「あたらしい ゲームがあるから いっしょにきて あそぼう」

と いわれたら どうしますか？

こたえ

保護者の皆さんへ

子どもに対する犯罪は、見ず知らずの他人ではなく、知人が加害者になる例が多くあります。子どもを人間不信にさせてはいけませんが、注意をするように促しましょう。また親以外の人とどこかへ行く場合は必ず親に相談することを教えていきましょう。

2017년 11월 17일 2017년 11월 17일 2017년 11월 17일 2017년 11월 17일 2017년 11월 17일

いかの おすすめ



くるまに の らない



「みちに まよってしまったので くるまにのって あんないしてほしい」
「くらくなったから おうちまで くるまで おくってあげよう」
「いっしょに くるまで あそびにいこう」

と いわれたら どうしますか？

こたえ

保護者の皆さんへ

車に乗っている人から声をかけられた場合、腕をつかまれて引っ張り込まれないように、1.5mぐらい距離をとるように指導をしましょう。また、逃げる際には車の進行方向の反対に逃げるように指導しましょう。

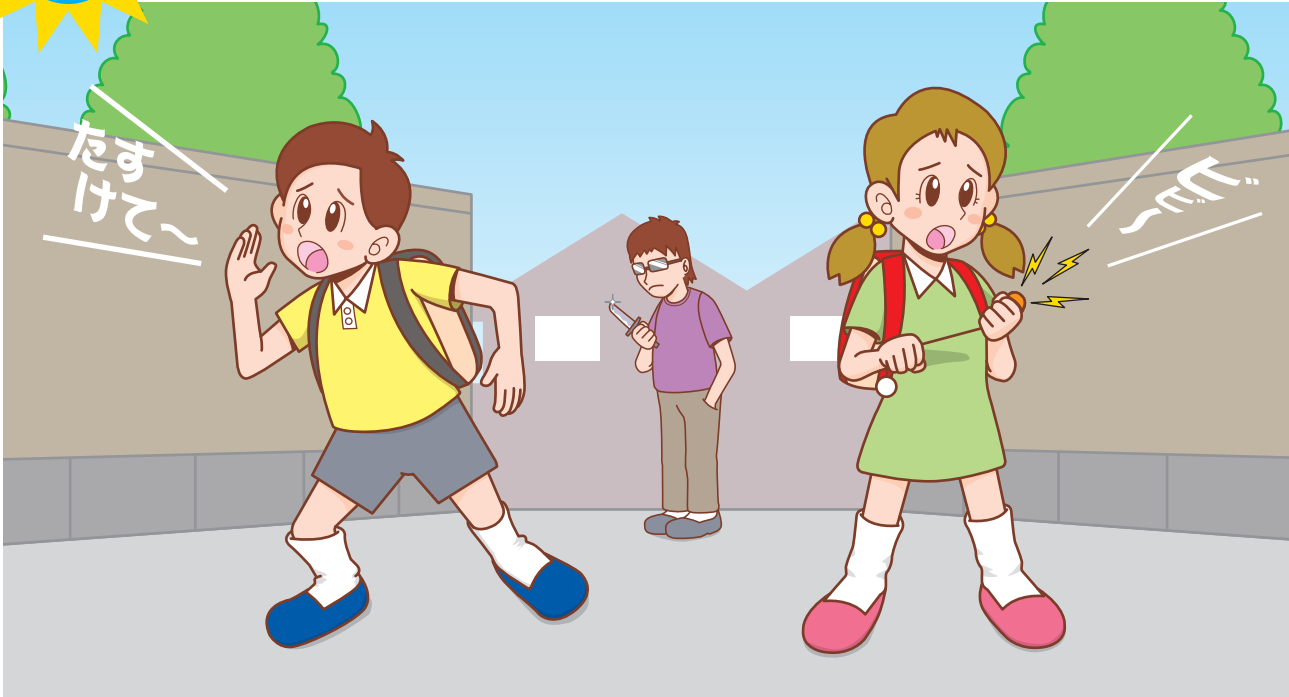
連れ去り事件の犯人は、子どもをゲームやお菓子などで車内に誘い込む場合だけでなく、道案内をお願いする、行方不明のペットの探索をお願いするなど、子どもの親切心を悪用する場合がありますので、注意するように促しましょう。

2023년 10월 10일 (수요일) 2023년 10월 10일 (수요일) 2023년 10월 10일 (수요일)

いかのおすし



お おごえを だす ぼうはんブザーを ならす



ついてくるように さそわれた
いきなり うでを ひっぱられた
いきなり くるまに ひっぱりこまれた
はものをもっているひとが ちかづいてきた
こんなときは どうしますか？



ぼうはんブザー

こたえ

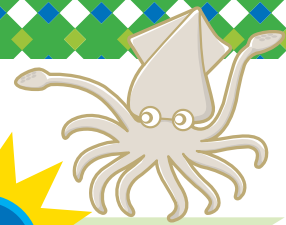
保護者の皆さんへ

不審者に声をかけられたり、連れ去り未遂被害といった被害にあった子どもたちの多くが、大声をあげたり防犯ブザーを鳴らすことが出来ませんでした。また、防犯ブザーは電池が切れては意味がありません。

緊急の場合、大人でも考えて行動することが難しくなります。とっさに大声を出したり、防犯ブザーを鳴らせるように、日頃から実践的な訓練を繰り返して、いざと言う時に対応できるように指導をしてください。また、防犯ブザーは安全で鳴らしやすいところに装着し、登下校時だけでなく放課後も持つようにしましょう。

こたえ： おおごえをだすか ぼうはんブザーを ならして につる

いかのおすし



こわいめにあったり あやしいとおもったら **す**ぐにげる



どんな ところに にげたら いいでしょうか？

いいとおもえばしよに○を、だめなばしよに×をつけましょう。

- 1 こども110 ばんのいえ ()
- 2 ひみつのかくれが ()
- 3 きんじょのおみせ ()
- 4 こうえんのトイレ ()

保護者の皆さんへ

近づいてくる人や車から声をかける人など、少しでも怖いと思ったり、怪しいと思ったら、すぐに逃げるように子どもに指導をしましょう。これも訓練を繰り返すことが重要です。また、声をかけられた際に手や体を捕まえられないように、1.5m程度の距離をとっておくように練習をしておくといいでしょう。

こども110番の家や商店、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、郵便局などの信頼できる大人が居る施設に逃げ込むように指導をしましょう。途中で隠れるなどは逆効果になりかねません。

こたえ 1: ○ 2: × 3: ○ 4: ×

いかのおすし



こわいめに あったら おとなに **し**らせる



こわいめにあったら

おうちのひとや せんせいに なにを しらせますか？

こたえ

保護者の皆さんへ

子どもにはいたずらをされたり、連れて行かれそうになったり、怪しいと思ったら保護者や先生に知らせるように指導をしましょう。

保護者に心配させないように、あるいは恥ずかしかったり、保護者から怒られることを心配したり、不審者から黙っておくように脅されて話さない場合がありますので、日頃から怒らずに話を聞くことや、脅しに従わないでいいことを伝えましょう。

こたえ：いつ かわいめにあつたのか、どこで かわいめにあつたのか、
どんな かわいめにあつたのか、
なにを 知らせたのか、なにを 知らせたのか。

保護者の皆さんへ

子どもには、屋外でのびのびと遊ばせたいものです。

子どもたちが犯罪に遭わないよう、通学路、公園、広場などの安全を確保するために、地域に住む人とも協力して、子どもの安全を見守る防犯活動に参加していただければと思います。防犯活動を始めの場合に必要な用品や保険等については、下記の市民安全課までご相談ください。

また、狙われにくい住宅や、子どもの遊び場の草木の剪定、落書きやポイ捨てゴミの除去、挨拶運動など地域で犯罪を減らしていくまちづくりにご協力いただければと思います。

子どもの犯罪被害の傾向

子どもが一人のときに犯罪の被害に遭う傾向があります。公園などで一人で遊ばせないように指導しましょう。また、通学（登校及び下校時）はお友達といっしょにするようにしましょう。公園でトイレに行く場合なども、一人でトイレに入らず、お友達といっしょにトイレに向かうように指導しましょう。

自宅でも、ご家族が仕事等で不在の場合に被害に遭う場合があります。だれも居ない自宅に入る際は周囲に気をつけて、室内に押し込まれないように、また、誰も居なくても「ただいま」と言うように指導するとともに、大人がいないことを口外しないように指導すると良いでしょう。

マンション等の集合住宅では、駐車場、駐輪場、エレベーター、階段や踊り場、屋上などの死角になりやすい場所が多くあります。このような場所で一人で遊ばないようにさせるとともに、防犯カメラやセンサーライトを設置するなどして、犯罪者が嫌がる環境を作っていくことも重要です。

子どもへの指導

防犯ブザーや位置探索機能付きの携帯電話を持たせたり、このマニュアルで指導をすることは重要ですが、それらの対策だけでは、子どもはもとより、大人も緊急時に適切な行動をとることは出来ません。緊急時に的確な行動を取るためには、実践的な訓練により、考える間もなく行動に移せるようにしていくことが重要です。実際に大人が不審者役を演じて、適切な行動が取れるように指導をしたり、鬼ごっこなどのレクリエーションに不審者から逃げたり距離をとるといった、要素を含めるなどを行っているところもあります。

子どもが放課後に外出する際は、かならず「誰と、どこで、何をするか」を聞くようにしてください。また、危ない場所で遊ばないことや、防犯ブザーを携帯することなどを指導しましょう。なにかあった場合はすぐに保護者に伝えるとともに、子どもが相談をしやすいように日頃からコミュニケーションをとるようにしましょう。防犯ブザーの電池の確認や携帯電話の位置探索機能の確認なども忘れないようにしてください。

防犯指導は子どもの目線で行いましょう。子どもは、公園でよく見かける程度の人でも「知っている人」と思います。また、子どもは平気で危ないことをすることがあります。そこで、保護者は、子どもの目線に立って、家のまわりのどこが危ないのかを一緒に考えたり「こうしてはいけない」「あれはだめだ」と一方的に言うのではなく「なぜ、そうしてはいけないのか」「あなたなら、どうするのか」と問いかけて、意識を高めていくことが重要になります。

子どもの親切心を逆手に取る不審者なども居ますが、他人を見たら犯罪者と思えと教えるのも考え物です。また、障がいを持つ方や経済的に恵まれない方といった社会的弱者に対する差別を助長するようなことも避けるべきですし、将来の非行の芽ともなりかねません。困っている人が居たら信頼できる大人を呼ぶといった指導をすると良いでしょう。